

柳田国男著書の復刻版

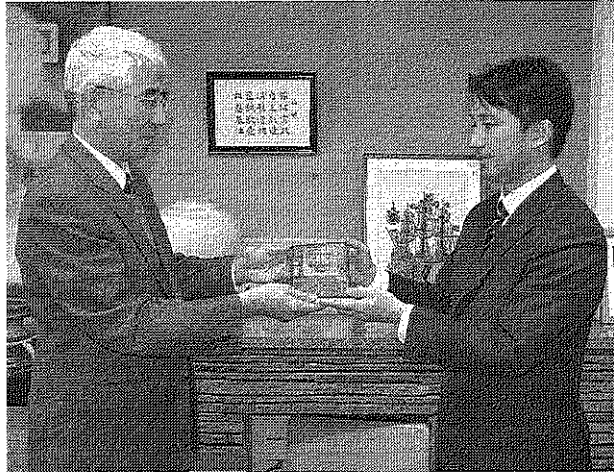
「先祖の話」県内全高校に

宇都宮の石材店社長が寄贈

「今の時代に必要」

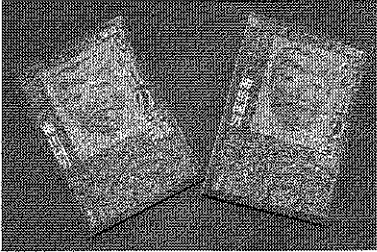
【宇都宮】民俗学者柳田国男の著書「先祖の話」の復刻に奔走した東京町の石材店社長谷田部修(四〇)さんが、県内の全高校九十四校にこの本を寄贈する。きっかけは本紙のコラム雷鳴抄。谷田部さんは十一日、宇都宮女子高を訪れ、県高校校長会長の酒見広志校長に本を手渡した。

(野村明敏)



「先祖の話」を酒見校長(左)に手渡す谷田部さん

県内の全高校に寄贈される「先祖の話」



一九四五年に書かれた「先祖の話」は民俗学の立場から、日本人が心のよりどころとする

る祖先信仰を解き明かしている。柳田家初代となる烏山藩士など、本県に非常に縁の深い柳田自身の先祖についても触れている。

絶版になっていたが、谷田部さんら全国の石材業界の有志で組織する勉強会のメンバーが「今の時代にこそ必要な本」と復刻に向け奔走。親族の許可を得、同業八十八社が資金を出し合うなどして八月「新訂 先祖の話」として限定版で再版にこぎ着けた。七千部印刷され、谷田部さんの元に約二百冊届いた。

寄贈のきっかけは、この経緯を書いた本紙のコラム雷鳴抄。谷田部さんが本の寄贈を考えていると紹介したところ、谷田部さんと親交のある県学校生活協同組合の高橋勝也理事長(六八)が「高校生にせよ、谷田部さんに連絡。県校長会長の酒見校長との間を取り持ち、今回の寄贈が実現した。」

酒見校長は「高校生にちょうどよいレベルの本。県に縁が深い柳田国男に興味を深めてもらえれば」と寄贈を喜んでいる。谷田部さんは「核家族化が進み先祖についての意識が希薄になっている今だからこそ、多くの人に読んでもらいたい」と話している。

「新訂 先祖の話」は書店では流通していないが、県立図書館に寄贈されている。